

生田緑地およびその周辺におけるトンボ目の記録 (2014 年度)

川島逸郎*・永井一雄*・堀内慈恵*・村山早紀*

Records of some Odonata species in Ikuta-Ryokuchi Park and its adjacent areas, Kawasaki City in 2014

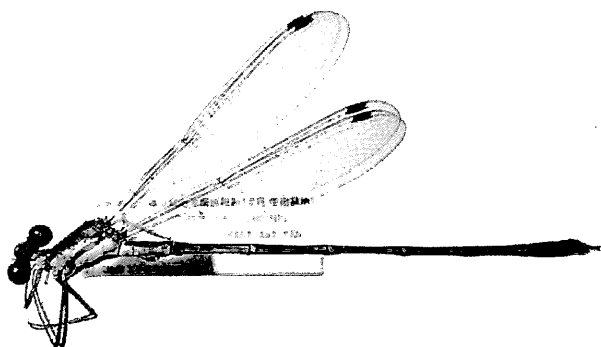
Itsuro Kawashima, Kazuo Nagai, Yoshie Horiuchi and Saki Murayama

現在の神奈川県は、池や沼など止水域の数もわずかとなった上、流水域も人工的な改変がなされている部分が多いため、全国的にもトンボ目がかつても衰退した地域として知られる。こうした背景から、すでに本県に産する約 1/3 の種が絶滅危惧状態に陥っていることが判明している(荻部他, 2004; 2006; その他)。とりわけ、相模川以東の県東部は市街化が進んでいることから、種数および個体数ともに希薄な地域となっており、市街化がほぼ全域に及んでいる川崎市域もその例外ではない。そうした中、市内ではまとまった自然環境が今に残る生田緑地や多摩川を中心に、これまでもトンボ目の調査や記録が数多くなされてきた(林・小林, 1991; 鎌倉・岩田, 2007; 岩田・山本, 2011; 荻部他, 2000; 2003; 河野, 1999; 西田他, 1998; その他)。しかし、川崎市の都市化がますます進む中で、生田緑地およびその近郊のトンボの生息状況は、その生息環境としての水系とともに今も変遷を遂げつつあると考えられ、今後もそのモニタリングを継続することが必要である。今回は、2014 年度に生田緑地およびその近隣で得られたトンボ目の知見の中で、特に留意すべき記録を取りまとめて報告する。

学名および種の配列は、尾園他 (2012) に従った。本報告における記録標本は、現時点で収蔵(登録)番号は付けられていないが、すべて川崎市青少年科学館(通称:かわさき宙と緑の科学館)に収蔵されている。

アオイトトンボ科 Family Lestidae

オオアオイトトンボ *Lestes temporalis* Selys, 1883



1

図 1. 生田緑地産オオアオイトトンボ標本 (24-X-2014).

2 exs. (羽化殻), 30-VI-2011, 多摩区枳形 7 丁目(生田緑地・奥の池), 永井採集; 1♂, 同前(生田緑地・奥の池), 10-X-2014, 川島採集; 1♂ (7♂), 同前(生田緑地・奥の池), 12-X-2014, 川島・村山採

集(目撃); 1♂ (1♂), 同前(生田緑地・菖蒲園上の小池), 24-X-2014, 川島・永井採集(目撃).

現在の生田緑地は、均翅亜目の種がほとんどみられない点が目立った特徴となっているが、現在も一定の個体数を保ちつつ生息している種のようなものである。生息水域は、後述するヤブヤンマなどとも共通し、樹林や葦中の水たまりといった小規模な止水を好む点で、緑地に残る止水域の現況と合致するためとみなされた。水域の水面上に張り出した、生きた樹枝のみに産卵する特異的な習性があり、菖蒲園上の小池ではイロハカエデ、「奥の池」ではヤマグワで産卵痕を確認している。

ヤンマ科 Family Aeshnidae

マルタンヤンマ *Anaciaeschna martini* (Selys, 1897)

1♂2♀, 多摩区枳形 7 丁目(生田緑地・北側の谷戸), 22-VIII-2014, 川島・永井目撃; 2♂1♀, 同前, 30-VIII-2014, 川島目撃; 1♂1♀, 同前, 9-IX-2014, 川島目撃.

谷戸上空あるいは低空を、直線状に摂食飛翔する個体を目視確認した。川崎市での記録は、麻生区黒川地区以外では少なく、生田緑地(荻部他, 2003)および宮前区東有馬(岩田・山本, 2011)があるにすぎない。生田緑地内では現在、生息に適した水域はごく少ないと思われるが、わずかながらも残存、発生している可能性がある。

ヤブヤンマ *Polycanthagyna melanictera* (Selys, 1883)

1♂, 多摩区枳形 7 丁目(生田緑地・中央広場脇), 2-VIII-2014, 川島目撃; 1♂, 同前, 4-VIII-2014, 川島採集; 1♀, 同前, 4-VIII-2014, 川島・堀内目撃; 1♂, 同前, 26-VIII-2014, 川島・永井・堀内目撃; 3♂, 多摩区枳形 7 丁目(生田緑地・北側の谷戸), 5-VIII-2014, 川島目撃; 2♂, 同前, 7-VIII-2014, 川島目撃; 3♂2♀, 同前, 8-VIII-2014, 川島目撃; 3♂, 同前, 22-VIII-2014, 川島・永井目撃; 3♂, 同前, 30-VIII-2014, 川島目撃; 3♂1♀, 同前, 9-IX-2014, 川島目撃; 3♂2♀, 多摩区枳形 7 丁目(生田緑地・東口付近), 8-VIII-2014, 川島目撃; 1♂2♀, 同前, 13-VIII-2014, 川島目撃.

生田緑地におけるヤンマ科では最も個体数の多い種。生息水域(止水)としては、樹林で囲まれた狭小な水たまりにほぼ限定され、当地の水系環境の現況をよく示している。8月2日に目撃した♂は、日中、主に林縁沿いで探雌飛翔を行っていたほか、数度にわたって開放的な池の水面上を巡回した。同4日の♂は、池の水面上に浮いていた比較的新鮮な死体を拾得したものである。その他の例は、北部および東口付近の谷戸上空で、17時から18時台にかけて黄昏(摂食)飛翔していた個体を目視確認した。

*川崎市青少年科学館(かわさき宙と緑の科学館)

*Kawasaki Municipal Science Museum

サナエトンボ科 Family Gomphidae

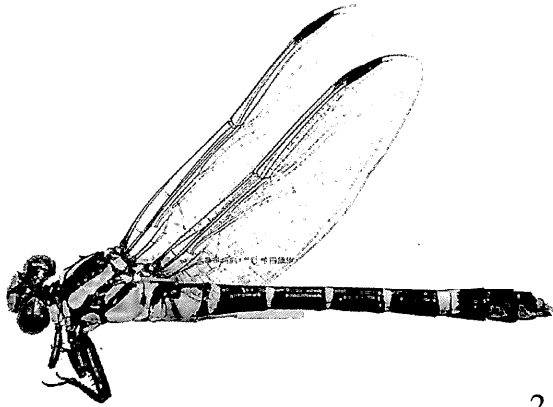
コオニヤンマ *Sieboldius albardae* Selys, 1886

1♂, 多摩区枳形 7 丁目 (生田緑地・つつじ山), 11-VII-2014, 川島・永井目撃; 1♂, 同前 (生田緑地・中央広場), 11-VII-2014, 川島採集。

本種は、荻部他 (2000)により初めて川崎市域から記録された。生田緑地内には流水は存在するものの、本種の生活に適した部分がほとんどないことから、緑地内で観察される個体は、近隣の多摩川本流で羽化したものと推察される。羽化後、未熟期から成熟期に至るまでの期間中、生田緑地を生活圏として利用している可能性がある。

オナガサナエ *Meligomphus viridicostus* (Oguma, 1926)

1♀ (未成熟), 多摩区枳形 7 丁目 (生田緑地・川崎市青少年科学館), 27-VI-2013, 永井採集; 1♀, 同前 (生田緑地・中央広場), 24-VII-2014, 永井採集; 1♀ (未成熟), 同前 (生田緑地・川崎市青少年科学館), 27-VI-2014, 川島採集; 1♂ (未成熟), 同前 (生田緑地・つつじ山), 25-VII-2014, 川島採集; 1♀ (生田緑地・中央広場), 同前, 7-VIII-2014, 川島採集; 1♀ (未成熟), 多摩区東生田 2 丁目, 16-VII-2014, 川島目撃; 1♀, 多摩区東生田 1 丁目, 30-VII-2014, 川島採集; 1♀ (未成熟?), 同前, 31-VII-2014, 川島・永井・堀内目撃。



2

図 2. 生田緑地産オナガサナエ♀ (未熟) 標本 (27-VI-2014)。

本種は、川崎市域からは河野 (1999)が初めて記録した。その後、荻部他 (2000)は多摩川中流域の広範囲から多数の羽化殻を得たうえで、「サナエ類ではもっとも個体数の多い種」とした。荻部 (2003)でも、改めて非常に多数の羽化殻とともに報告し、生田緑地での記録を「移動個体と思われる」としている。

このたび、多摩川流域以外の生田緑地とその周辺から新たに 8 例の記録が得られたが、通常、水域においては産卵行動時以外に出会う機会の少ない♀の割合が高いことが特筆される。2013 年度に得られた標本は、青少年科学館のプラネタリウム内に迷入した個体である。2014 年 7 月 25 日に得られた♂は、丘陵頂上 (ピーク) 部分において樹上の枝先で休止していた個体である。同年 8 月 7 日に得られた♀は、中央広場の地上で拾得した古い死体であるが、

本種の♀との同定は可能であった。生田緑地に隣接する東生田においては、7 月 16 日の目撃例は、午前 8 時頃にバス道路沿いの歩道上を、北の方角へ向かって低空 (地上約 50~60 cm) を飛翔していた個体であるほか、同年 7 月 30 日に採集された♀ (未成熟) は、バス道路沿いの人家の塀に静止していたものである。通常、本種の未成熟個体や♀は、生殖水域に近在する樹林や疎林などで生活する。今回記録されたものは未成熟個体が多いことから、生田緑地は、多摩川で羽化した個体の主要な生活圏として利用されている可能性がある。川崎市域は都市化が進み、まとまった樹林は生田緑地以外に存在しないために飛来が集中し、水域から隔たった地点にも関わらず観察の機会が高まっているものと推察される。

トンボ科 Family Libellulidae

チョウトンボ *Rhyothemis fuliginosa* Selys, 1883

1♀ (未成熟?), 多摩区枳形 7 丁目 (生田緑地・つつじ山), 11-VII-2014, 川島・永井目撃。

川崎市内では、麻生区早野 (五郎池) からの 1 例が記録されているにすぎない (荻部他, 2000)。今回の記録は、生田緑地においては初めてのものとなる。地形上、ピークに当たる部分の上空を巡回飛翔していた個体で、腹部の形状から♀と判断された。未成熟個体の摂食飛翔とみられるが、生田緑地内には本種の生息可能な水域は存在しないため、他地域からの漂行、迷入個体と考えられる。

アキアカネ *Sympetrum frequens* (Selys, 1883)

3♂ (16♂7♀), 多摩区枳形 7 丁目 (生田緑地・中央広場), 18-IX-2014, 川島採集 (目撃); 1♀, 同前 (生田緑地・中央広場), 6-XI-2014, 川島目撃; 1♂, 同前 (生田緑地・青少年科学館), 16-XI-2014, 川島目撃; 1♂, 同前 (生田緑地・日本民家園入口), 1-XII-2014, 川島目撃。

湿田、水深の浅い水溜りや低茎の湿地を好み、過去にはもっとも普通のアカネ属であったが、近年、全国規模での減少が顕著となっている種。9 月 18 日の記録は、2014 年の生田緑地において、初めて多数の飛来が確認された日に当たる。以降も断続的に確認され、中央広場脇の池では産卵行動がしばしば観察されたが、日によって個体数の変動が大きく、発生地からの漂行あるいは移動途上の個体と推察された。生田緑地内では、本種の生息に適した止水域がほとんど存在しないが、今後の飛来状況には留意する必要がある。

ナツアカネ *Sympetrum darwinianum* (Selys, 1883)

1♂ (未成熟), 多摩区枳形 7 丁目 (生田緑地・中央広場), 23-VII-2014, 川島採集 (図 3)。

神奈川県 RDB 2006 年版における「要注意種」(荻部他, 2006)。川崎市内での記録は少ない (荻部他, 2003)とされる種である。湿田や低茎の湿地を好み、生田緑地からは 3 例の報告があるが (荻部他, 2004)、標本データを伴った記録は多くない。今回得られた個体は未成熟であったことから、緑地内あるいは近隣に発生地が残存している可能性がある。

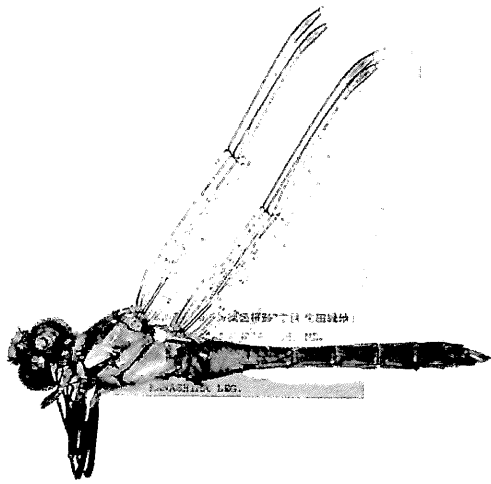


図3. 生田緑地産ナツアカネ♂ (未熟) 標本 (23-VII-2014).

リシアカネ *Sympetrum risi* Bartenef, 1914

1♂, 多摩区枳形 7 丁目 (生田緑地・川崎市青少年科学館), 4-VIII-2014, 川島目撃; 1♂, 多摩区枳形 7 丁目 (生田緑地・奥の池), 17-IX-2014, 川島・村山目撃.

神奈川県 RDB 2006 年版における「要注意種」(荻部他, 2006)。8 月の例は、科学館裏の林縁で飛翔、静止する個体を確認した。生田緑地「奥の池」は、景観的にはヤブヤンマや本種などに適した止水域に見えるが、それらがほぼみられない現状の背景の一つには、アメリカザリガニやウシガエルの捕食圧が高い可能性が考えられる。ただし、生田緑地内では本種の発生が可能な、樹林などに囲まれた止水域が点在しており、岩田 (2012) においても本種が記録されている。

コノシメトンボ *Sympetrum baccha* Selys, 1884

1♀, 多摩区枳形 7 丁目 (生田緑地・川崎市青少年科学館), 23-VIII-2014, 永井目撃 (撮影)。

発生数に年変動がある種。川崎市内での記録は少ないが、生田緑地からは 3 例が報告されている (荻部他, 2000; 2003; 西田他, 1998) は、現在はほとんど確認されていない。生殖水域としては、比較的水深があり開放的な止水を好むが、現在の生田緑地においては、そのような水域が存在しないためと推察される。

ヒメアカネ *Sympetrum parvulum* (Bartenef, 1912)

1♂ (未成熟), 多摩区枳形 7 丁目 (生田緑地・川崎市青少年科学館), 13-VIII-2014, 川島採集 (図 4)。

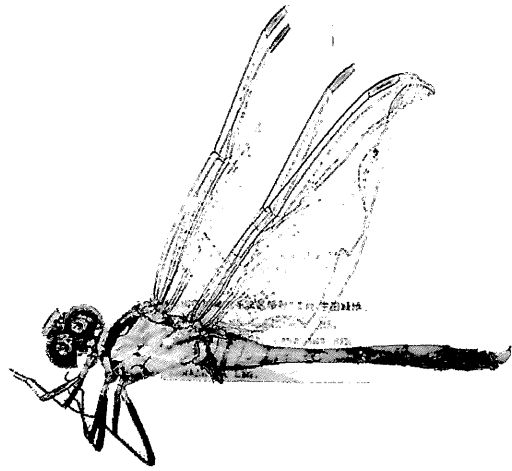


図4. 生田緑地産ヒメアカネ♂ (未熟) 標本 (13-VIII-2014).

神奈川県 RDB 2006 年版における「要注意種」(荻部他, 2006)。本種は遷移の進んだ低湿地を好む種で、生田緑地においては荻部他 (2003) で記録されたほか、岩田 (2011) でも報じられた。緑地内には、本種の生息が可能な湿地環境が残っていることから、今回記録された♂は、そうした生息水域からの分散個体と考えられる。

マユタテアカネ *Sympetrum eroticum* (Selys, 1883)

1♂ (1♂), 多摩区枳形 7 丁目 (生田緑地・中央広場), 25-X-2014, 川島採集 (目撃); 1♂, 同前 (生田緑地・中央広場), 29-X-2014, 川島採集。

神奈川県 RDB 2006 年版における「要注意種」(荻部他, 2006)。中央広場の周縁部の、林縁に相当するような地点から得られた。本種は湿地や低湿地の普通種であったが、とりわけ県東部においては近年の減少が著しく、生田緑地は川崎市内に残された産地としてきわめて重要である。ただし、本種の生息に適した地点はごく限られており、中央広場付近からは発生していない。今回記録された個体は、生息域から分散移動した個体と推測される。

ミヤマアカネ *Sympetrum pedemontanum* (Allioni, 1766)

2♀♀, 多摩区枳形 7 丁目 (生田緑地・中央広場), 29-VII-2014, 川島採集 (図 5)。

神奈川県 RDB 2006 年版では「準絶滅危惧」にランクされている (荻部他, 2006)。近年の減少が顕著で、神奈川県東部での記録も少ない種 (荻部他, 2006) だが、今回、生田緑地内で 3 例目となる記録が得られた。2 個体ともに、成熟直後の新鮮な状態であった。用水路、細流や河川の支流など、幾分流れのある部分を生殖水域として好むことから、流水のある生田緑地およびその周辺に、発生地が残っている可能性がある。

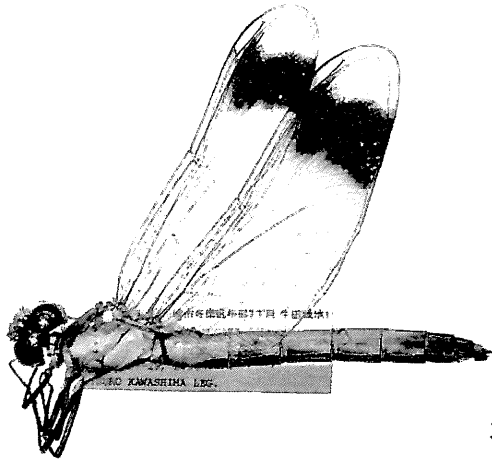


図5. 生田緑地産ミヤマアカネ♀標本 (29-VII-2014).

ネキトンボ *Sympetrum speciosum* Oguma, 1915

1♀ (未成熟), 多摩区枳形 7 丁目 (生田緑地・つつじ山), 25-VII-2014, 川島採集

丘陵頂上 (ピーク) 部分で、樹木の枝先に静止していた個体を採集した。本種は、樹林に近接した、開放水面および水深のある止水域を好むため、生田緑地内では「奥の池」などが発生地候補として考えられるが、現時点では生殖行動等は観察されていない。

引用文献

林 長閑・小林正人, 1991. 川崎市のトンボ類・チョウ類, pp. 95-116, *Li*: 川崎市自然環境調査報告 II. 223 pp., 川崎市教育委員会, 川崎.
 雑倉正人・岩田芳美, 2007. 川崎市のトンボ類の記録, pp. 267-271,

Li: 川崎市自然環境調査報告 VI. 8+320 pp., 川崎市教育委員会, 川崎.

岩田臣生, 2011. 生田緑地北側の谷戸で観察されたトンボ, pp. 117-118, *Li*: 川崎市自然環境調査報告 VII, xii (incl. 8 figs.)+219 pp., 川崎市青少年科学館・特定非営利法人かわさき自然調査団, 川崎.

岩田芳美・山本 晃, 2011. 川崎市における2種のトンボの記録, p. 54, *Li*: 川崎市自然環境調査報告 VII, xii (incl. 8 figs.)+219 pp., 川崎市青少年科学館・特定非営利法人かわさき自然調査団, 川崎.

苅部治紀・岩田芳美・高橋小百合・昆虫班, 2000. 川崎市内のトンボ類 -おもに 1999 年の調査から-. 川崎市青少年科学館紀要, (11): 24-28.

苅部治紀・岩田芳美・昆虫班, 2003. 川崎のトンボ 現状とその変遷, pl. 19+pp. 418-429, *Li*: 川崎市自然環境調査報告 V. 4+565 pp. (CD-ROM), 川崎市教育委員会, 川崎.

苅部治紀・川島逸郎・岸 一弘・石川 一, 2004. トンボ目 Odonata, 67-130 pp., *Li*: 神奈川県昆虫誌 I. 314 pp., 神奈川県昆虫談話会, 小田原.

苅部治紀・川島逸郎・岸 一弘, 2006. トンボ類, pp. 311-324, *Li*: 高桑正敏・勝山輝男・木場英久 (編). 神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006. 442 pp., 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.

河野浩道, 1999. 生田緑地で採集された市内未記録のトンボについて. 川崎市青少年科学館紀要, (10): 58.

西田孝治・岩田芳美・高橋小百合・昆虫班, 1998. 生田緑地の昆虫 (チョウ類・トンボ類). 川崎市青少年科学館紀要, (9): 41-42.

尾園 暁・川島逸郎・二橋 亮, 2012. ネイチャーガイド 日本のトンボ, 531 pp., 文一総合出版, 東京.